

#### ポン菓子「しゃこぽん」販売中!

NPO法人あいうえおの会が運営する「ひまわり工房」が遮光器土偶をモチーフにしたポン菓子「しゃこぽん」を開発し販売しています。

ひまわり工房は、市の6次産業化促進事業を活用してしゃこぽんを商品開発。つがる市産米を使用し、ごましお味としょうゆ味、プレーン味の3種を発売。あいうえおの会奈良衛理事長は「試行錯誤の上、ようやく完成した。今後はもっと味の種類を増やしていきたい」と話していました。

パッケージには紙の帯が巻かれ、遮光器土偶をモチーフにしたイラストのスタンプを押しています。紙の帯は 牛乳パックを原料に再生和紙を手作りするこだわり。コ ースターとしても使用できます。

しゃこぽんは、市農産物直売所、街の駅あるびょん、 木造駅、しゃこちゃん温泉で、2枚入り税込み100円 (プレーン味は5枚入りで120円)で販売中です。



倉光市長にしゃこぽんをお披露目した奈良理事長(中央) と職業指導員の工藤一美さん(右)

### 一人一人を大切にした福祉のまちづくりに向け決意



福祉の作文を発表する車力中学校2年生藤林厘歩さん

第17回つがる市社会福祉大会が、2年ぶりに開催。市民約150人が集まり、一人一人を大切にした福祉のまちづくりに向け決意を新たにしました。

市内の小中学校から5人の児童生徒が「福祉の作文」を発表。「相手を思いやることで皆がくらしやすい社会になっていく」、「学校のボランティア委員会の活動を通じてやさしさを届けたい」、チェスボロー号の遭難救助を取り上げ「つがる市を誇りに思い、愛を忘れずに生きていきたい」などと、はっきりとした声で読み上げました。

式典では、市社会福祉協議会の白戸英行会長が「誰もが住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりに積極的に取り組んでいきます」とあいさつ。続いて、地域福祉の向上などに貢献した個人、団体に対し、白戸会長から表彰状および感謝状が伝達されました。

### 県技能奨励賞を受賞 さらなる高みを目指す!

中村板金・中村乙さん(柏桑野木田)が、県技能奨励賞を 受賞し、その喜びを倉光市長に報告しました。

中村さんは、銅板加工技能に優れ、全国競技で上位入賞したほか、県内の主要な文化財の屋根修復工事を多数手掛けています。認定職業訓練校では講師を務め人材育成にも力を注ぎ、国の「ものづくりマイスター」として小中学校で積極的に体験指導も行っています。この度、これらの実績が認められて奨励賞を受賞。

倉光市長は、「中村さんは地域づくりの面でも大切な人材。この賞の上の県卓越技能者を是非とも目指してほしい」と激励。中村さんは「さらなる上の賞を目指して、日々技術の探求をしている。今まで人がやったことのないことをやれる人になりたい」と意気込みを話しました。

復元した旧制木造中学校講堂の銅板屋根も中村さんが手掛けたものですので、是非ご覧ください。



自作の手振りがねを市長に贈った中村さん(右)

## 縄文遺跡がデザインされた自動販売機がお目見え!



松の館に設置された自動販売機の前で。右は中村部長

市とみちのくコカ・コーラボトリングが「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録PR推進に関する協定を締結しました。同社が自治体と世界遺産に関する協定を締結するのは本市が初めて。本市の遺跡や遮光器土偶のイラストがデザインされたラッピング自動販売機を松の館に設置。売り上げの3%がPR活動への支援金として市に寄付されます。

協定を締結し倉光市長は「遺跡の保存・活用の一助になる。協力していただけることを非常に心強く思う」、中村誠悦青森営業統括部長は「縄文遺跡群を多くの方に知っていただいて地域活性化につなげたい」とあいさつを述べました。

現在、松の館に設置している自動販売機は、春ごろに 縄文遺跡案内所に移動し、PRに活用します。

## 世界文化遺産登録認定証のレプリカが届きました

2021年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」。この日、文化庁から登録認定証のレプリカが届きました。認定証はユネスコが交付し、原本を文化庁が保管。文化庁は公式のレプリカを作成し、構成資産を有する自治体と遺跡にそれぞれ贈りました(本市には自治体分1つと2つの遺跡分の計3つ)。

届いた認定証のレプリカを確認した倉光市長は「責任の重さを感じる。遺跡を見に来てよかったと思ってもらえるようにガイダンス施設を早く整備したい」などと語り、NPO法人つがる縄文の会川嶋大史理事長は「市と一緒になって遺跡の魅力を伝えていきたい」と話しました。

レプリカは松の館(1月31日まで)、縄文館、カルコで展示していますので、皆さんも是非ご覧ください。



認定証の到着を喜ぶ市長、教育長、川嶋理事長、学芸員と ボランティアガイドの皆さん

# 生活習慣病予防と健康増進に向けて 公開講演会開催

11/20 市立図書館



参加者の手のひらにセンサーを当て野菜の摂取量 を測定する和田助教(左)

放送大学青森学習センターと市立図書館が弘前大学大学院医学研究科和田啓二助教を講師に迎え、公開講演会を開催しました。

参加した方は、講演会の前に体脂肪や筋肉量、血圧、野菜の摂取量など自身の健康状態を測定。その結果を基に和田助教の話に耳を傾けました。

和田助教は、「健康を損なう多くの原因が生活習慣の乱れにある」とし、高血圧が引き起こす病気をはじめ、健康づくりのための運動、食習慣の改善などを詳しく解説。「健康になるにはどうしたらよいかを考え、必要な知識を身に付けることが大事。自分のことは自分でしか変えられない」などと話しました。

和田助教によると、カボチャ、ブロッコリー、人参、トマト、ピーマンなどの色の濃い野菜はカロテノイドを多く含み、がん予防に効果があるそうです。厚労省では1日350

②以上の野菜を摂取することを推奨しています。皆さん、野菜を十分に食べていますか。



# 津軽自動車道「柏浮田道路」が着工

津軽自動車道の未整備区間「柏浮田道路」の起工式 が行われ、工事の無事と一日も早い開通を願いまし た。

式には木村次郎国土交通大臣政務官をはじめ国会議員や国・県の関係者など50人が参加。倉光市長は「待ちに待った道路。この区間で締めくくりとなる。津軽半島の軸となる津軽自動車道が全線開通すると、物流や観光、医療の面での効果が期待できる」と話しました。

柏浮田道路の工事費は380億円。完成は現時点で未定。柏稲盛から木造越水までの延長12.3 が開通すると、浪岡IC一鰺ヶ沢IC間は約7分の時間短縮になります。また、道路は高盛土構造で防雪柵が連続設置され冬期の吹雪の影響を受けにくくなります。



工事の安全を願い、くわを入れる関係者

## 願いを込めて 新年の縁起物



#### 12/3~9 干支展(津軽亀ヶ岡焼しきろ庵)

津軽亀ヶ岡焼しきろ庵の一戸広臣さん(木造館岡)が干支展を開催し、寅の焼き物を展示し訪れる人々の目を楽しませていました。

制作した寅の焼き物は、胴体に津軽亀ヶ岡焼の特徴である雲形 文(縄文の文様)を赤色や金色で描き、動きのあるデザインに。

制作した一戸さんは「コロナの収束と2022年は五黄の寅ということで運気上昇を願って作りました」と話しました。

#### 12/10 糸鋸工芸館

糸鋸工芸館の長内正春さん(木造出来島)が、屛風山彫干支絵馬を制作。緻密に設計されたデザインを基に、糸鋸を匠の技で操り、丁寧にくり抜きます。最後に、バーナーで焼き色を付け、磨き上げれば完成です。

約150個の絵馬を制作すると話す長内さんは「コロナの前に戻ることを願って作りました。寅の顔を前向きにし、しっぽを上げて勇ましさを表現しました」と話しました。



#### 12/19 三新田神社

木作町内会(白戸英行会長)が、健康延寿、疫病収束などを願い、三新田神社に三十三俵としめ縄を奉納しました。

400年以上の歴史を持つ三新田神社は、五穀豊穣を祈願する場所として地域に親しまれてきました。

この日は関係者約20人が参加。1カ月半かけて編んだ大しめ縄を鳥居に巻きつけ、干支である寅の絵を飾り、米俵を次々と積み上げました。同町内会の片山勝明さんは「この奉納は今回で30回目。町内会が団結して長年続けてきた。早くコロナが収束してほしい」と話しました。

# 児童生徒が活躍



生の青木海羽さんが、4段階評価で最高のA(優秀)を見事 獲得し、本選(全国大会)の切符を手に入れました。 この日は青木さんが市役所を訪れ、その喜びと出場する 本選への抱負を倉光市長に伝えました。 青木さんは「全国大会は緊張すると思うけど楽しく演奏し てきます。聞く人の心に残るような演奏をしたいです」と話

い結果を期待しています」と激励しました。

しました。倉光市長は「落ち着いて演奏してきてください。良

10月31日に弘前市の百貨店中三で「中学生・高校生の

ための第18回日本管弦打楽器ソロ・コンテスト」(東邦音楽 大学主催)青森予選が開催されました。木管楽器の部(フル ート) に出場した森田中学校(竹内明人校長) 吹奏楽部3年

森田小学校(平山和仁校長)がアルミ缶リサイクル協会主 催の「2021年度アルミ缶小・中学校回収協力者表彰」で優 秀賞を受賞しました。同校では地域の方々の協力を得なが ら、アルミ缶をはじめ廃品回収に取り組んでいます。同校ボ ランティア委員会が回収作業にあたり、委員会活動の時間 のほか、休み時間などを利用して整理整頓し、コツコツと活 動を継続。2020年は335%のアルミ缶を回収しました。

ボランティア委員会の大場掌子委員長(6年生)は「うれし いのと驚き。地域の方々が協力してくれたから受賞できた」 と喜びを語ってくれました。



ハツラツとした元気いっぱいの選抜チームメンバー

10月30日、31日に青森市スポーツ広場で「第5回CBS 少年軟式野球学童新人大会青森県交流戦」が開催されまし た。森田小・稲垣小・車力小の児童で構成された「つがる市 選抜・ジュニア」チームが出場し、見事初優勝を飾り、全国大 会出場を決めました。大会まで2回しか合同練習できません でしたが、メンバー同士すぐに打ち解けて勝ち進み、「弘前シ ャイニーズ・ジュニア」との決勝は6対5で接戦を制しました。 この日、チームメンバー17人が市役所を訪れ、倉光市長に 優勝の喜びと出場する全国大会への抱負を語りました。

車力小5年生のキャプテン工藤謙慎君は「全国大会では チーム全員で協力し、全力で戦って優勝を勝ち取りたい」と 話しました。倉光市長は「県大会優勝おめでとう。最後まで 諦めることなく、今日の元気の良さで、全国のチームを相手 にがんばってきてください」と激励しました。

北海道深川市にあるクラーク記念国際高校野球部で、木造中出 身の兄弟、新岡真輝君(2年生)と新岡歩輝君(1年生)、森田中出身 の小野陽翔君(2年生)、車力中出身の坂本劣陽君(1年生)の4人が 活躍しています。

同校野球部は、2021年秋の北海道高校野球大会で見事優勝。秋 の高校野球日本一を決める第52回明治神宮野球大会初出場を果 たしました。大会では、九州国際大学付属高校(福岡)と対戦し、残念 ながら5対1で敗れてしまいました。それでも、同校は2022年春の 選抜高校野球大会出場が有力。本市出身の4人のさらなる活躍が期 待されます。

真輝君は「春の甲子園で、まずは全国1勝を達成できるように全 力でプレーし、両親やお世話になった方々に恩返したい」、歩輝君は 「神宮大会は負けてしまいましたが、夢の舞台に立てて良い経験に なりました」、小野君は「お世話になった先生や地域の方々への感謝 を忘れず、精一杯がんばります」、坂本君は「日々の練習を大切にし、 甲子園の大舞台に立てるようにがんばります」とメッセージを寄せ てくれました。



(左から)新岡(歩)君、新岡(真)君、小野君、坂本君